

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 8年 2月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2192100465		
法人名	社会福祉法人 北農		
事業所名	グループホーム パサーダ		
所在地	大垣市北方町2丁目70-1		
自己評価作成日	令和 7年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和 8年 2月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.haroro.com/hokushin/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	グループホームパサーダ運営推進会議委員		
所在地	岐阜県大垣市北方町二丁目70番1		
訪問調査日	令和7年8月27日、令和7年10月29日、令和7年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>短期入所生活介護（ショートステイパサーダ）、特別養護老人ホームパサーダ、デイサービスセンター喜多方、居宅介護支援事業所しんめいと隣接しており、多様なサービスを総合的に提供できる施設のひとつである。法人全体で利用者の自立支援を目標に多職種が高度な専門職を目指し、知識の習得と人材育成と働きやすい職場環境の構築を目的として以下の取組みを実施しています。資格取得・研修受講へのサポートとして、自己のスキルアップを目的とした研修受講による特別休暇制度、研修費用等の奨学金貸与制度、外部講師を招いての個別指導制度の創設。年次有給休暇が取得しやすい環境として、介護現場への複数の介護ロボットの導入により業務の効率化と生産性の向上を図り、職員に心身の負担を軽減し、離職防止と職員増加に繋げ、年次有給休暇の取得しやすい職場環境の構築。役員同志が情報共有し、働きやすい職場づくりや平等な人事考課に繋げることを目的として、職員面談を重視し、役員、課長、主任、リーダー等の職員がそれぞれと年2回の面接の実施等を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>居心地の良い共用空間づくりとして、共用空間は季節感を感じ取れる作品を利用者とともに作成しており、掲示物や作品等もわかりやすく、見えやすく、文化祭の作品についても、利用者と職員が協力しながら楽しく制作してる様子を感じ取れ素晴らしい取り組みがなされている。重度化や終末期に向けた方針の共有と支援についても、入所時、終末期に本人、家族と常に意向が確認できており様々な状況において医療機関とも常に情報共有ができています。緊急な対応が必要な場合でも冷静で迅速な判断が行われており、多職種間で連携がとれている。医療機関との連携については、常に医療機関と情報の共有ができており、入院時、退院時にはカンファレンス等で情報交換ができています。年1回顧客満足度調査を行い、常に家族の意向を把握するとともに、その結果について職員がその情報の把握ができています。</p>
--

地域密着型サービス自己評価・外部評価

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に法人及び地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を掲示し、管理者と職員が定期的に確認・話し合いをして実践している。	自己評価に基づき、職員と理念を共有することは大切なことなので、今までとおり実践してほしい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、引き続き実践してほしい旨の内容となった。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の職員は、利用者の在宅の状況と地域とのつながりの情報を共有し、ケアを実践している。地域との交流については徐々に再開できている。	自己評価に基づき、地域との交流が再開できたことは利用者にとって良いことであり、地域との交流は更に増やしてほしい旨の意見となった。	あまり出来ていない評価であるが、徐々に再開できていることであり、感染症の状況を勘案しながら、今後増やしてほしい旨の内容となった。	
3	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況とそれに基づくサービスについて報告と評価を行い、その結果を職員にフィードバックし、職員の理解度も検証している。	自己評価に基づき、フィードバックした結果、職員の理解度については大変良いことであり、引き続き継続してほしい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、今後も運営推進会議委員の意見、評価を活かしてほしい旨の内容となった。	
4	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは常に情報を共有しながら、地区担当の地域包括支援センター担当者とも意見交換を行いながら協力関係を構築している。	自己評価に基づき、継続した取り組みを行ってほしい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、引き続き緊密に連携してほしい旨の内容となった。	
5	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回研修を実施し、その内容について職員が正しく理解できているか検証し、身体拘束を行わないケアを実践している。	自己評価に基づき、身体拘束には仕方がない事もあるが、とても難しい問題であり、研修を通して職員への意識向上をお願いしたい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、研修等でその意識づけに向けた取組みを継続してほしい旨の内容となった。	
6	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回研修を実施し、虐待の種類、内容について学ぶとともに、「虐待に関する意識調査」を行い、職員のその内容の理解度を検証するとともに、利用者の入浴時の全身観察等で未然防止に努めている。	自己評価に基づき、研修を実施しているも、その場、その時に起こる状況は避けられない事もありうるので、慎重に対応することと、研修を通して全職員への意識向上、周知徹底をお願いしたい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、虐待はあってはならないことであり、研修の実施は当然であるが、職員の意識づけが重要であり、実践を継続してほしい旨の内容となった。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の尊厳を保ち、制度への理解を深めるため、施設内外の研修を活用し、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会を設け、又会議等において利用者個々の必要性を検討している。			
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、法改正等による料金改定時には必ず重要事項説明書等で丁寧、親切に説明し、理解を得ている。			

9	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回「顧客満足度調査」を行い、家族からの意見、要望を頂き、その結果を職員全員が把握し、サービスに活かすとともに、第三者委員の制度についても家族に説明している。	自己評価に対し、「顧客満足度調査」の意見、要望等を職員が把握していることは良いことであり、継続してほしい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、引き続き継続してほしい旨の内容となった。
10	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人役員、管理者は年2回全職員との面接を実施し、運営に関する事項を含む職員の意見や提案を取り入れ、事業所運営に反映させている。	自己評価に基づき、現場で働く職員の意見や提案はとても大切だと思うので、管理者は細かく意見に耳を傾け継続した取り組みをお願いしたい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、常に職員の意見を取り入れやすい職場環境の維持をお願いしたい旨の内容となった。
11	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	目標管理シートを活用し、職員の業務に係る自己評価、年2回の面接をもとに人事考課評価を実施し、待遇面に反映させるとともに、当該面接により就業環境の整備が整い、岐阜県ワーク・ライフ・バランスエクセレント企業の認定を受けている。	自己評価に基づき、仕事とプライベートの生活を調和させるには、仕事に対するエネルギー、趣味や健康等に費やす時間をバランス良く充実感や満足感を得る事が出来ると思う旨の意見と、職員と面談する環境が整えられており良いと思う旨の意見となった。	充分できているとの評価であり、継続して取り組んでほしい内容となった。
12	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自己評価表及び外部評価表を活用し、職員の力量を把握するとともに、施設内研修はもとより、施設外研修の受講も強く推奨している。	自己評価に基づき、日々の実践が大切であり、施設内外の研修に積極的にされており良いと思う旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、更に研修等において質の高い職員を育ててほしい旨の内容となった。
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	業界団体に加盟し、加盟施設との職員間の交流を行い、研修を通し同業者との交流をもとにネットワークを築き、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が安定した共同生活が送れるよう、利用者個々の役割（清掃、調理等）を見つけ、互いに協力しながら関係性を構築している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	11	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望や思いを傾聴し、その情報を職員間で共有し、意向に沿えるよう努めている。困難な場合は、家族に支援をお願いする。	自己評価に基づき、利用者の希望や思いを傾聴し、その方の生き方、暮らし方等、意向に添えることが出来るとその方も日々楽しく生活ができて良いと思う旨の意見と、利用者の思いに寄り添った支援がされており良いと思う旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、引き続き継続してほしい旨の内容となった。
16	12	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返し、担当者会議にて本人・家族の要望、日頃の様子や気づき等を意見交換し、現状に応じたそれぞれの思いが反映された介護計画を作成している。	自己評価に基づき、人それぞれが暮らしてきた生活に近づき、その人に応じた介護、接し方ができれば良いと思う旨の意見と、本人や家族と話し合い、介護計画が作成されているので良いと思う旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、更に多職種が意見を出し合えるケアプランになるよう取り組んでほしい内容となった。
17	13	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に、内容の実践・取り組み・気づき等を入力し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	自己評価に基づき、一人ひとりの接し方・気づきは、日々の実践にてその人の様子を観察することが大切だと思う旨の意見と、記録をもとに職員間で情報が共有出来ており良いと思う旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、更に職員間での情報共有に努めてほしい内容となった。

18	14	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得て外出支援をしたり、利用者の要望で外部からマッサージを委託したり、外出レクや業者による移動販売で買い物支援を実施している。	自己評価に基づき、利用者の状況、体力等に対応して軽い運動やダンス等を取り入れたり、美容に興味のある方には、メイク、ネイル等もしてあげると本人は楽しく、いつも身なりを整えることが大切だと思ふ旨の意見と、利用者が楽しみのある生活が送れるよう工夫がされており良いと思ふ旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であり、常に様々な状況に対応出来るよう心掛けてほしい内容となった。
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には参加できていないが、外出レクを通して豊かな暮らしを楽しむことができる様支援している。地域行事には参加出来るよう支援していきたい。		
20	15	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を確認し、かかりつけ医へ報告し、往診、夜間対応して頂ける、医療連携に努めている。	自己評価に基づき、今まで診てもらっていた先生にお世話になるので、とても安心だと思ふ旨の意見と、かかりつけ医と連携がとれており良いと思ふ旨の意見となった。	充分出来ている評価であり、引き続き支援を継続してほしい内容となった。
21	16	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、安心して治療に専念できるよう家族、医療機関と情報交換を行い、退院時には退院カンファレンス等で情報交換を行っている。	自己評価に基づき、軽度な症状ならば退院してきても入所時と同じ生活が保てられるよう、リハビリ等で寝たきりにならないよう出来たら良いと思ふ旨の意見と、医療機関と連携がとれており良いと思ふ旨の意見となった。	充分出来ている評価であり、引き続き医療機関との連携に努めてほしい内容となった。
22	17	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、担当者会議等で、本人・家族に終末期の意向確認をし、重度化が予想される場合は、施設で出来る医療を説明し、方針を共有している。	自己評価に基づき、利用者、家族へ意向確認、説明が出来ており良いと思ふ旨の意見となった。	充分出来ている評価であり、引き続き継続してほしい内容となった。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルについて職員が正しく理解し、その対応については定期的に研修・訓練において実践力を身に付けている。		
24	18	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回BCP訓練、防災訓練等実施しているが、地域との協力体制は出来ていない。	自己評価に基づき、町内の防災訓練にも参加出来るという旨の意見と、いざという時、迅速に対応できるよう、日頃から防災訓練に取り組むことが大切だと思ふ旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、地元の防災訓練等、地域と連携できる体制を更に構築出来るようになると更に良い旨の内容となった。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	19	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お世話させていただいているとの精神で、利用者個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自己評価に基づき、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同志の関係を築ければ良く、声掛け等も強い口調にならないように心掛けると良いと思ふ旨の意見と、引き続き人格を尊重した対応をお願いしたい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、利用者個々の状況を詳細に把握し、更に人格を尊重した対応を実践してほしい旨の内容となった。
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や思いを話せる関係、環境に心掛け、その中で、自己決定出来るよう努めている。		

27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活スタイルを大切にし、個々の得意な事、好きな事を把握し、本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
28	20	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査と日常の会話より、個々の好みを把握し、利用者とともに食事の準備や片づけ、おやつレクも実施し、楽しみの機会を提供している。	自己評価に基づき、食事の時間に音楽等を流したりするのも楽しいと思う旨の意見と、利用者にとって食事はとても楽しみにされていることの一つだと思うので、嗜好調査を活かしていってもらえると良いと思う旨の意見となった。	充分出来ている評価であり、引き続き食事に関する取り組みを実践してほしい内容となった。
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多職種で食事や水分の摂取量、体重管理を行い、体調管理に努めるとともに、必要時、話し合いの場を設けている。		
30	21	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回、歯科衛生士による口腔ケアを実施し、一人ひとりの能力に応じて、介助が必要な方には、声掛けをしながら、一緒に行うようにしている。	自己評価に基づき、利用者本人が出来ることは出来る限りするように手伝い、支援してあげると、主体的な力が引き出せるのではないかと思う旨の意見と、誤嚥性肺炎を予防するためにも口腔ケアが大切であり、引き続き取り組んでもらいたい旨の意見となった。	充分出来ている評価であり、引き続き支援してほしい内容となった。
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を第一に考え、見守りと介助が必要な方の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	回数は決まっているが、その日の体調を確認し、タイミングは、可能な範囲内で対応し、湯の温度、入浴時間など個々の好みに配慮しながら、楽しんで頂けるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室であり、気兼ねせず、安心して過ごして頂き、個々の睡眠パターンを把握し、就寝・起床時刻を調整している。		
34	22	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	多職種が薬の目的、副作用、容量を正しく理解し、服薬マニュアルに沿って行い、バイタルサイン、症状の変化に気を配り、医師と連携を図り服薬支援に努めている。	自己評価に基づき、服薬に変更があったりすると、その後の様子を観察し記録に残し、副作用等の把握、徹底管理に心掛けてほしい旨の意見と、一人ひとりの状態に合った服薬支援が出来ており良いと思う旨の意見となった。	充分出来ている評価であり、引き続き支援を継続してほしい内容となった。
35	23	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りのある生活が出来、趣味活動が継続できるよう支援するとともに、食事・洗濯・清掃等、利用者にあった役割を一緒に楽しんでもらっている。	自己評価に基づき、職員本位なケアにならないよう心がけて、利用者が本人のペースで過ごせるように出来れば良いと思う旨の意見と、役割を持つことで生きがいに繋がるため、引き続き支援をお願いしたい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、常に新しいことを考えながら実践できれば更に良いのではないかの内容となった。

36	24	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の影響により外出支援は制限されていたが、ドライブ、花見、喫茶店等への外出ができるようになり、気分転換が図るなど得意分野で個々の力が発揮出来るよう支援している。	自己評価に基づき、寒い時期、インフルエンザ等もまん延してきているので外出する時は、外部の人々との接触等充分気を付け、注意して行くことを心掛けてほしい旨の意見と、利用者にとって外出は楽しみの一つだから、感染症に留意して引き続き支援をお願いしたい旨の意見となった。	ほぼ出来ている評価であるが、まだ以前の状況まで回復していないため、感染症等に留意しながら、外出支援に努めてほしい内容となった。
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はしていただいているが、移動販売を利用しているの買い物支援を行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時、利用者が希望の時に電話などの出来る体制になっている。		
39	25	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節感が感じ取れる作品を利用者とともに制作し、飾り付けている。また、事故の無いよう障害物に気を付け、日々整理整頓を行い、居心地よく過ごせるよう努めている。	自己評価に基づき、施設内を見学させてもらい、掲示物や作品等がわかりやすく、とても見やすく、楽しく思う旨の意見と、利用者が居心地よく生活できる引き続き支援をお願いしたい旨の意見となった。	充分できている評価であり、施設内の作品等職員と利用者が協力して制作したことがうかがえ、引き続き取り組んでほしい内容となった。
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるよう席を配置し、自由に居心地よく過ごせるよう努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からのプレゼントや写真を飾ったり、馴染みのある物を持参していただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節に合わせた個々の作品を飾ったり、日時がわかるようカレンダーや時計を置き、自立した生活が送れるよう環境作りをしている。		

V アウトカム項目

43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：15)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：14, 27)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：27)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：36)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：20)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：18)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる。 (参考項目：8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理 解者や応援者が増えている。 (参考項目：3)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームパサーダ
作成日 令和 8年 2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者が地域とつながる生活が継続できるよう事業所自体が地域の一員として交流できているが、利用者自身の交流については、徐々にできつつあるが、感染症の影響で充分できていない。	事業所及びその利用者が地域の一員であることを認識して、地域との交流に感染症等に留意して交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加する ・地域の方々（保育園の園児等）と交流を図る 	12ヵ月
2	52	運営推進会議で利用者の在宅の状況や地域との繋がり的情報を共有し、ケアに繋げているが、地域との繋がりや深まりとができつつあるが、事業所の理解者、応援者は増えていない。	事業所から地域に今以上の情報を発信し、理解者を増やし、利用者との交流の機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所からの地域への情報の発信を増やす ・事業所の理解者を増やす。 	12ヵ月
3	36	日常的な外出支援については、家族の協力を得ながら実施しているが、ドライブ、散歩、地域との交流の機会がまだ少ない、	事業所主体でのドライブ、散歩、外出、地域との交流の機会を今以上に増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ、散歩、外食等の外出を行う ・地域との交流の外出を行う 	12ヵ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした。
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
			⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った。
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤ その他 ()
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④ その他 ()
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤ その他 ()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町村へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
			⑤ その他 ()